

春秋会

ニュースレター

2024.8



今月の予定

・ 8/23 (金) 12:00~

幹事会・選考委員会 (選考結果発表)

・ 8/28 (水)

破産研修その2 (浦会員)

懇親会 若手会

春秋会サマーフェスのご報告

親睦委員会 松田七海 (76期)

令和6年7月30日、例年「暑気払い」や「ビアパーティー」と題して開催されていた夏の企画が、今年は「サマーフェス」と題して開催されました。企画名の変更については、若手の方にも気軽に参加していただきたいという思いがありました。結果として、若手の先生方だけでなく、事務局の方々や修習生にも多数ご参加いただき（もちろんベテランの先生方もたくさんご参加いただきました。）大変盛況なイベントとなりました。当日の様子について精一杯伝えさせていただきます。



親睦委員会委員長である間野先生による開会の挨拶の後、乾杯の挨拶を山口健一先生にいただきました。「年長者が必ず挨拶をしなくてはならないという慣習を無くし、挨拶をしたい方や企画の趣旨に沿った方に挨拶をしていただくのがよ

いのではないでしょうか。」というご提案をいただきました。山口先生のご提案については、今後の企画において、どなたに挨拶をしていただくかを検討する上でご参考にさせていただこうと思います。

挨拶の後は歓談もしていただきつつ、今回の企画のメインとも言えるゲーム企画が始まりました。ゲーム企画は、テーブルごとにチームを組み各ゲームでポイントを獲得していただき、最終的にはゲーム全てを通した総合得点で高順位を目指していただくというチーム戦の企画です。

2024 年度 広報委員

- ・河野雄介(60期、委員長)
- ・小野順子(57期、担当副幹事長)
- ・西原和彦(55期)
- ・堀川智子(57期)
- ・溝上絢子(57期)
- ・浦寛幸(59期)
- ・松尾洋輔(59期)
- ・広瀬元太郎(60期)
- ・柳勝久(61期)
- ・山田寛子(65期)
- ・金星姫(66期)
- ・木場晶子(67期)
- ・田村瞳(67期)
- ・板崎遼(67期)
- ・吉留慧(68期)
- ・高一成(69期)
- ・根本俊太郎(70期)
- ・足立敦史(71期)
- ・村本健司(71期)
- ・河野哲平(71期)
- ・才木晴幹(72期)
- ・中岡さつき(72期)
- ・中西教子(72期)
- ・久井大輝(73期)
- ・佐々木崇人(74期)
- ・神澤鈴子(74期)
- ・今野敬文(76期)
- ・小林悠人(76期)
- ・永田駿(76期)
- ・山口謙都(76期)

今回のゲームは「数字当てクイズ」「大喜利クイズ」「名称クイズ」「ジェスチャーゲーム」の4種類でした。クイズについては、それぞれの種類ごとに親睦委員が作問したクイズに回答していただきました。そして、ジェスチャーゲームでは親睦委員のジェスチャーの出題に対して、何のジェスチャーであるかを当てていただきました。



このゲームコーナーが本当に大盛り上がりで・・・。答えは親睦委員が用意しているもの1つだけ、と言っているにもかかわらず、ほんの少～～～～でも自分たちの回答が正解にかすっていれば「これはニアピンの答えだから1ポイントはあはる。」「なんなら3ポイントあはる。(??)」との声をあげ、ジェスチャーゲームの出題者の動きひとつにも物言いが四方八方から飛び「今のはジェスチャーがおかしいから1ポイントはあはる。」「なんなら(以下略)。」と声を張り上げ・・・。全てのゲームに対してあの手この手でなんとかポイントをもぎ取ろうとする方々のご主張もとい難癖が飛び交うという有様でした。

しかし、このゲームひとつにも真剣に、かつ全力で取り組む姿勢から春秋会の皆様のパワフルな人柄が伝わりました。また、チームで回答をまとめ上げるという過程に加えて、この「なんとかポイントもぎ取ろうや!」という場外乱闘でも見事なチームワーク(?)で、皆様のいざという時の団結力を知ることができました。

と、色々と大盛り上がりのゲーム企画の最後には、ポイントが集計され、上位1位～3位のチームの皆様には横瀬先生が選び抜いてくださった素晴らしい景品（ex：「A5 ランク黒毛和牛カタログギフト」「ソーダストリーマー」）が贈呈されました。羨ましいことこの上ないですね。



そして、締め挨拶を幹事長である村瀬先生にさせていただき、盛り上がりすぎて会場撤収時間を過ぎてしまうほどの「春秋会サマーフェス」は終了いたしました。

総じて、まさに「フェス」と言うに相応しい「お祭り騒ぎ」になったのではないのでしょうか。

来年も「サマーフェス」という名称で開催されるかは未定ですが、夏の親睦企画は親睦委員会としても大変力を入れているところですし、是非来年以降も奮ってご参加

いただければと思います。

当然、他の企画にも力を入れているので少しでも興味が湧いた企画がございましたら気軽にご参加いただけますと嬉しいです。親睦委員会一同皆様に少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう尽力いたします。

以上



「初めての破産申立」研修について

広報委員会 中西 教子（72期）

令和6年6月25日18時から、若手会主催、講師として浦寛幸先生をおおつかえし、「初めての破産申立」と題する研修が開催されました。弁護士会館参加とWEB参加の併用です。

本研修は、もはや毎年、若手会の恒例の研修となっているもので、実は、全2回完結型です。1回目の内容は、破産申立事件にまだ慣れていない若手を対象に、主として同時廃止となるような案件について、手順の基本と、最初の申立てでやりがちな失敗に対する注意点をわかりやすく教えてくれます。

私は弁護士になって1年目から2年目にかけて、この研修を2回受けて、何とか初めての破産申立事件をこなすことができた思い出があります。ロースクールで破産法を少しかじったことがある程度で、初めて破産事件を受任した時は不安でしたし、「同廃になるような破産事件など簡単でしょ」といった雰囲気もあるので、余計に不安でした。この研修の話聞いた時、絶対受けなきゃと思い、実際に受講し、後々レジュメなどを見返して、受講しておいて本当に良かった、と思ったものです。

さて、今年は、現地参加が9人、WEB参加が10人と、若手会としては盛況な方の参加者数でした。



私としては、今年は少々余裕がありました。以前の受講の時は、基本的なことを理解することに注力していましたが、3回目となれば、基礎的なこと以外についても、楽しんで聴く余裕がありました。もし、過去に受講したことがある、もしくは、もはや同廃申立ての基本など受講不要、と思ってらっしゃる先生方も、時間があれば受講なさったらいかがでしょうか。

例えば、現金支払いについての報告ないし資料は、支払いの裏付けのためで

はなく、別の口座などの資産隠しがないことを証明するためであることをきちんと意識して財産調査をしているか、とか、免責不許可事由について上申書を書く際には、条文を見て構成要件を意識して書くべきであり、この場合はこういう書き方をしたらよい、とか、弁護士費用の支払を確保するために申立前にしておいた方がよいこととか、後々のトラブル回避のために委任状に書くべき事柄とか、色々な注意点について聴くことができ、有意義でした。

研修後の懇親会も、参加者同士でざっくばらんに話ができて、楽しかったです。

ご飯も非常に美味しかったです。



次回、2回目の研修は、「初めての破産・初めての管財業務」と題して、令和6年8月28日18時から、弁護士会館1205号室とZOOM併用で行われます。

例年、1回目より参加者が少なくなることが通常ですが、管財業務を経験すれば、申立手続も劇的に改善されると言われます。若手の先生方は、是非、参加をご検討ください。

以上

ひと月一島、国内航路全制覇への旅(15)

～沖縄県：北大東島（前編）～

広報委員会 広瀬 元太郎（60期）

島には、何かのついでに立ち寄れる島と、その気になって行かなければいけない島がある。北海道の利尻島や礼文島は北海道旅行に組み入れることは可能

だし、最南端の波照間島や最西端与那国島も、石垣島へ行った際に何とか足を延ばすことができる。

沖縄本島の東360キロの地点に、北大東島と南大東島がある。南大東島は、NHKの天気予報に主要地点として登場するし、台風情報では「現在台風14号は、南大東島の南南東200キロにあって…」など登場するため、名前は聞いたことのある読者は多いであろう。しかし、行くのは一苦勞である。那覇から、一日1～2便の飛行機と2週間に1回の船しか交通機関がない。



【国土交通省 地理院地図】

このレベルになると、その島に行くこと自体を目的とし、気合を入れないと到達できない。この種の気合を入れないといけない島は、南北大東島以外には、鹿児島県のトカラ列島、東京都の小笠原諸島があげられる。

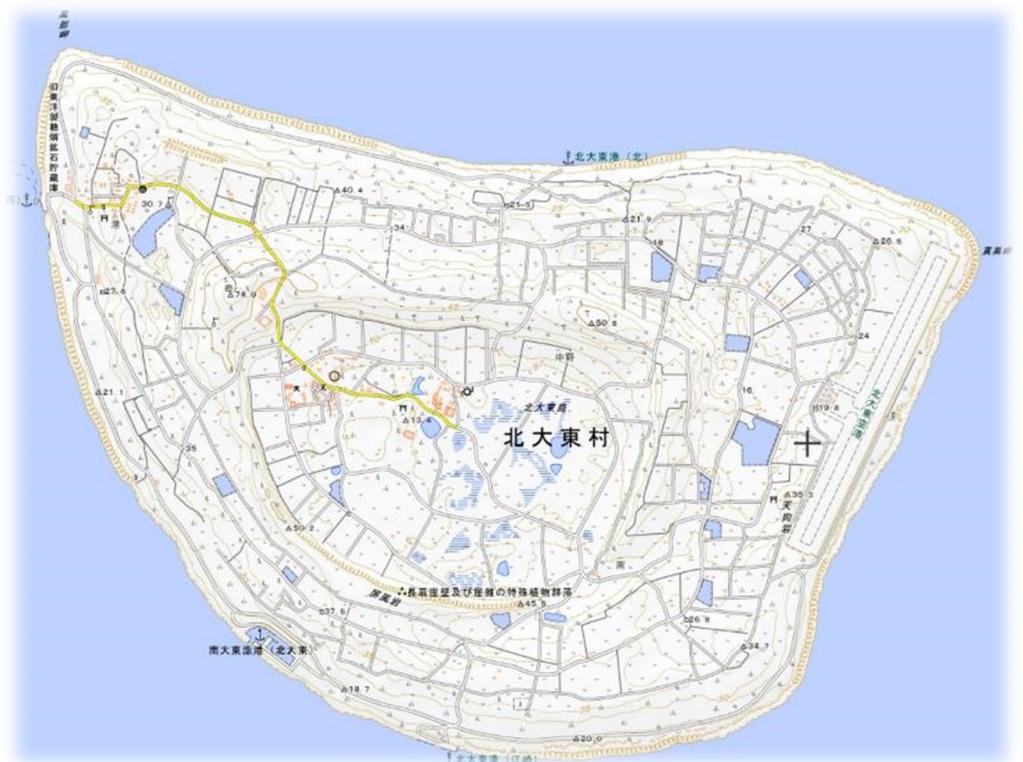
20年前くらいから、大東島には行きたいと思っていたが、結構交通費もかかるし（那覇までのチケット代+4万円くらいはかかる）、天候不順で帰れないリスクもあり、なかなか踏ん切りがつかなかった。

沖縄が大好きな方はご存じであろうが、沖縄旅行のベストシーズンは、6月末（沖縄の梅雨明け直後）から7月中旬（夏休み開始前）である。この時期は、晴天が続くし、台風が来る可能性も低い。夏休み直前期であるこの時期は、会社員は休みがとりにくいが、比較的自由に休むことのできる我々はこの時期はねらい目である。飛行機も安い。

2024年6月29日（土）、梅雨の大阪から那覇に向かう。屋久島を過ぎたあたりから雲がなくなり、真夏に向かって飛んでいく感じがよい。今年の梅雨入りは、沖縄も含め全国的に遅れており、6月29日までに梅雨が明けないという懸念もありドキドキしたが、梅雨明けは平年並みであった。すでに、沖縄は梅雨明けから一週間が経過している。那覇には10時30分着。前述したように、ここから先のスケジュールの立て方が極めて難しい。今回の命題は、土曜から月曜の2泊3日で、南北大東島に1泊ずつする、というものである。

もういちど位置関係を確認すると、南北大東島は那覇の東360キロの太平洋上にあり、南北大東島間の距離は8キロである。飛行機は、金曜～月曜は、那覇→北大東→南大東→那覇の北回り、火曜～木曜は、那覇→南大東→北大東→那覇の南回り、南大東島はこれに加えて、毎朝、那覇⇄南大東島の1往復がある。船便は、那覇港から南北大東島を回って那覇港に戻る三角ルートを航海する「だいとう丸」という船がある。所要時間は片道15時間、週1便で、出発日は天候により変更が多いとのことで、これは使えない。

今回は、6月29日、13時15分那覇発、14時15分北大東。
6月30日、16時ころ北大東から南大東、船
7月1日、15時35分南大東、16時40分那覇
のスケジュールを予定している。



【国土交通省 地理院地図】

6月30日の北から南の船が曲者で、この船が予定通りに出るのかは、6月29日時点でも未定、電話して聞いたところ「たぶん行ける」というのが答えであった。筆者は無謀にも、7月2日に、①依頼者打ち合わせ、②WEB期

日、③委員会という予定を入れてしまっている（夏の沖縄旅行の翌日にこのように大量の予定を入れることは大変危険なので推奨しない）。「たぶん行ける」では困るので、同じ日の14時45分北大東→15時05分南大東の飛行機を念のため予約している。北大東→南大東の船の運航が確定したら、飛行機をキャンセルする予定である。ここを飛行機にすると「航路全制覇の旅」の趣旨を没却するので、ぜひとも船に乗りたいところである。

まあ、このように大変面倒なことをしないといけない旅であるうえ、島にはリゾートホテルもない、特に北大東島には観光地と呼べるものはないに等しい。極めつけは、南北大東島は、全周が崖に囲まれていて砂浜が皆無である。まさに、気合を入れていかないといけない場所である。妻は、沖縄の島めぐりには同行してくれるが、今回は「本島なら行くけど、ええわ。」ということで、一人旅である。

那覇空港では3時間待ち時間がある。普通であれば、モノレールの乗り鉄をするのであるが、この日はモノレールが運休であった。土曜日にモノレールを止めるのか。やはり、夏休み前のこの時期は、シーズンオフであると考えられているのだろう。

北大東行の飛行機は50人乗りのプロペラ機である。ひめゆりの塔などがある本島の南端を経て、東に向かって進む。東に360キロということは、大阪を起点とすると横浜の少し手前の位置にあたる。ちなみに、那覇から南西に500キロ離れた与那国島も沖縄県であり、これは、大阪から宮崎までの距離に匹敵する。沖縄県は、横浜から宮崎までの広がりをもっているわけで、その範囲の広さに驚く。



1時間後、飛行機は、雲ひとつない北大東空港に着陸した。北大東村の人口は547人（令和4年）、筆者のマンションよりも人口が少ないが、空港が用意されている。主産業は、サトウキビ栽培である。この島の宿泊施設は、「はまゆう荘」と「民宿二六荘」の2

軒である。島の大きさは、東西4キロ、南北3キロ。大阪でいうと、東西が京橋と福島、南北が梅田と心斎橋。歩けない距離でないが、猛暑を鑑みると徒歩の移動は自殺行為である。今回は、「うふあがりレンタカー」を予約している。「うふあがり」とは、沖縄本島から見た北大東島のことで「うふ」は「大」、「あがり」は「東」を意味する。大東島そのままである。沖縄本島から見て、ここは、遙か東にある謎の島で、1903年までこの島は無人島であっ

た。開拓は、沖縄本島側からではなく、伊豆諸島の八丈島の人により開拓された。したがって、この島の文化は八丈島の影響が大きく、村の光景は、本島のように沖縄っぽくない。

飛行機に預けた荷物は、回転テーブルではなく、カウンターまで係の人が運んでくる。屋久島もこの方式だった。離島あるあるだ。

空港のロビーは、小学校の教室位の大きさを、隅の方に「うふあがりレンタカー」のおじさんと思われる人が、若い女性と雑談をしている。このおじさんに声をかけ、軽自動車を借りる。明日はどこに返せばいいのか聞くと、港に置いてくれとのことである。まずは、荷物を置きに宿に向かう。筆者の宿は、「はまゆう荘」の方である。海の近くに建っていきそうな名前であるが、島の中央部の小高い丘の中腹にある。室数は45室、収容人数70名、60席あるレストランを併設している。おそらく、島で一番立派な建物である。550人の人口の島にしては、かなり大きな宿泊施設である。筆者のあてがわれた部屋はきれいなシングルルームである。バスルームもある。

北大東島の大きさは前述した通りであるが、形状を説明する。まず、島の外周のほとんどは20m程度の崖である。海岸線から500m程度中に入った所に標高50m程度の山が円周状にあり、中央部は凹地となっている。北大東島は火山島ではないが、外輪山とカルデラのような構造となっている。そして、島の中心集落（といっても集落は2つしかないが）はその凹地の中央にあり、ここに村役場、唯一の店である農協、学校、唯一の信号機がある。道路は、大まかに言って、①海岸線に沿ってほぼ1周する道路（勝手に第3環状線と呼ぶ）、②外輪山の外側をほぼ1周する道路（勝手に第2環状線と呼ぶ）、③中央の凹地をほぼ1周する道路（勝手に第1環状線と呼ぶ）、④この3つの環状道路を串刺しにする何本かの道である。このような地形であるから、凹地の中央部（＝村の中心）からは、海は全く見えない。絶海の孤島であるが海が見えないという、この沖縄らしくなさがこの島の魅力なのか。

この島にはほとんど観光地はないが、観光地らしきものの一つに、北西部にある「リン鉱石貯蔵庫跡地」がある。ここに行ってみよう。はまゆう荘は、第1環状線から第3環状線にかけて南東から北西に串刺しにする道沿いにあるから、北西部のリン鉱石までは1キロほどで、2分で着く。かなり激しく損傷した貯蔵庫の跡地があった。リンは、渡り鳥の糞に含まれていて、渡り鳥の中継地である絶海の孤島にリン鉱山があることが多い。南太平洋の島ナウルは、リン鉱石が豊富に取れる→産油国のように贅沢三昧→リン鉱石が枯渇→衰退という流れで有名である。

この跡地は工事中で中に入れなかったため、5分くらいで観光を終え、次の観光地らしき場所である「沖縄海」に向かう。沖縄海は、島の東端にあり「沖縄県最東端の碑」がある。「沖縄海」なんて、この島の周りに無限に広がっているのではないかと突っ込みたくなる名称であるが、島で唯一、幅3メートルくらいの砂浜がある場所で、沖縄の海っぽい場所なので「沖縄海」と名付けられている。名称からして、ここが沖縄でないことを前提にしているようで面白い。沖縄海は、リン鉱石から見て島の反対側にある。串刺し道路を通って行くのが早いですが、そこはすでに通ったので、第3環状線を反時計回りに島を半周する。



遠回りのようであるが、距離は7キロなので、10分で着く。第3環状線からは、南に南大東島が見える。その距離は7キロ。建物や鉄塔も見える。南北大東島の間はそのように短い距離であるが、

その間の海の深さは1000mを超える。海は、強烈な太陽をあびて、深い深い青色である。なお、第3環状線の途中に、3つ目の観光地らしき場所である「台風岩」という岩がある。台風で、打ち上げられた岩ということで、1分で観光終了。

沖縄海。島の東側の崖の上の駐車場から、危なっかしい徒歩道を下ったところに、小さな砂浜があった。この砂浜はほぼ外洋に面しており、かなり高い波が砂浜を洗っている。寄せる波は、3m四方程度の砂浜を瞬時に水没させ、背後の崖に白波を散らしている。こんなところで水着で泳いだら、岩にたたきつけられ肉塊になってしまう。沖縄海のそばには、30代くらいの若者がいて、「泳げるんですか」と聞いたところ、「厳しいです。だいぶ、波は弱くなってきたんですがねえ」とのことであった。彼は、泳ぐつもりのようなだ。4つめの観光地らしきものとして「大東ピラミッド」というものがある。これは、島の北西にあり、リン鉱石の近くである。きわめて効率の悪い回り方をしているが、小さな島なので10分もかからない。なお、大東ピラミッドといっても、古代王朝があったわけでもなく（1903年までは無人島だったことは前述）、港を作ったときに掘った岩をきれいに並べたものである。



で?どうする。まだ島について1時間半くらいしか経ってないが、見どころは全部見終わってしまった。港を作るときに掘った岩(=産業廃棄物)置場が観光地とされているくらいであるから、見どころがないのは想定内である。昨日まで、TODOリストの項目を消すために必死で作業をし、突然の長い電話にいらっとしていた身からすると、「やることがない」という状況は何よりも宝物である。同じ観光地に道順を変えて、何度も行くという

贅沢をしてみよう。

午後7時過ぎ、沖縄の遅い日没を、何度目かのリン鉱石遺跡から眺め、はまゆう荘のレストランでオリオンビールとともに焼肉定食を食べた。レストランには、沖縄海のお兄さんや、島の色んなところで何度も顔を合わせた旅行者の面々が夕食をとっていた。この島に来ている観光客のほとんどは一人旅だ。沖縄本島に大量にいるカップルや家族連れ、オラついた兄ちゃんは皆無である。おそらく、この島へ旅人の思考パターンは筆者と似ていると考えられる。一度行って見たかった遠い島への旅が実現した満足感にひたっているのだろう。レストランのテレビはプロジェクトXを流している。テレビの内容は全国共通であるが、ここからは東京はもちろん那覇であってもはるかに遠い。外国のテレビを見ているような気がする。

やることがないので、お風呂にはいって寝ることにする。部屋のバルコニーには、ヤモリが上下逆さまにくっついており、時折大きな鳴き声を発している。南の島の夜は更けていく。幸せである。

続く



【追悼】今村峰夫さんとスキー旅行

三上孝孜（21期）

今村さんとは、何度か春秋会のスキー仲間と一緒に、蔵王等の東北地方にスキー旅行をした。と言っても、彼は、スキーをするわけではない。行き帰りの飛行機には一緒に搭乗するが、現地の飛行場に着くと、そこで別れて、一人でローカル線の旅と温泉を楽しんでいた。帰りの飛行機の中では、列車の旅の楽しさや、温泉地での郷土料理のおいしさを満足げに聞かせてくれた。

いつもニコニコして、温厚で優しい人だった。弁護士会の運動会でのラジオ体操のリーダー振りも、ユーモラスで人気があった。天国でも皆を温かく和ませていることだろう。

7月19日の幹事会で春秋会の2024年度予算が承認されました。今年度、会計に初めて携わる私は、7月に予算承認?遅くないか?という素朴な疑問から当初始まったのですが、年度開始後に執行部や各委員会が本格稼働することから、例年、4~6月は暫定予算で対応し、その間に事業計画をとりまとめ、7月に予算が決まるという運用となっています。

予算編成の過程で、各委員会や若手会の事業計画を確認しながら、様々な魅力的な企画があることを知ることができます。私は、若手会での活動以来、春秋会の行事には、ほとんど参加してきませんでした。今年度、予定があれば、行事に参加させていただいています。日常業務はもちろんのこと、日弁連や大弁などでも忙しいはずの会員の皆様方が、春秋会の取組みにも熱心にされ、様々な企画を進められていることには、ただただ感服するばかりです。ちなみに、今年度初めて参加した梅乃宿酒造の研修では、吉田社長の「現状維持は下り坂」という言葉に、頭を殴られた感覚を覚えました。

各企画が興味深いことはもちろんのことですが、春秋会の行事に参加して思うことは、ずっと若手だと思っていた私は、決して若くない、という厳然たる事実です(と言いながらも、まだ若いと信じている。)。そういえば、今年、後厄を終えて、目もショボショボすることが増えてきました。諸先輩方の様々な経験を知るのもよいのですが、エネルギーに活動される若手会員の方々の姿を目にしますと、謙虚な気持ちを忘れず私も頑張らねば、という気持ちを新たにさせてもらえて刺激的です。

会計担当は、会費の管理や各支出事務など、地味で手間のかかる作業も多く、どちらかと言えば、目立たない存在ですが、金庫番という重要任務を担っていますから、今後も、縁の下の力持ちとして、春秋会の活動をお支えする所存です。

引き続きよろしく願いいたします。

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 河野雄介 y.kono@swlaw.jp